

北海道岩見沢農業高等学校



学校周辺のポプラ並木

科学的根拠に基づいた農業生産の実践～グローバルGAP認証取得による農業生産の「見える化」実現～

農業のDXネイティブを育てる

200を超えるチェック項目

開設115年を迎えた「岩農^{がんのう}」こと北海道岩見沢農業高等学校では、農業を科学的に捉える視点を育むべく、生徒による「グローバルG.A.P.（農業生産工程管理）」の認証取得を行っている。鎌田一宏校長は「科学的根拠に基づく農業」の必要性を語り、他の農業高校との連携による北海道の農業全体のG.A.P.化を目指す。

実際の活動は、学校の圃場におけるさまざまなデータを取得してリスク評価を行い、9月の本審査に挑むのだが、G.A.P.取得チームの1年生首藤椿姫さんが「書類の多さに驚きました」というように、そのチェック項目は200を超える。また、3年生でチームリーダーの村上翔さんは「新型コロナで先輩からの引継ぎがほとんどできず、手探り状態でした」と苦勞を話す。



活動メンバーと指導している高橋英明教諭(後列左)



2021年GLOBALGAP更新審査終了後



●実施担当

高橋英明 教諭

●活動のモットー

生徒には自分の目で見て、手で触って、自分の頭で考えて行動するよう促している。そのためには科学的な分析と数値化が必要。



学年の垣根を超え課題解決の議論

ICTで農の未来を切り拓く

本審査では鋭い指摘を受けたものの、2年生の加藤将太さんは「人に説明する難しさを知ったので、そこを克服したいと思いました」と前向きだ。担当の高橋英明教諭も「自分が関わった作物を科学的に語れるようになりました」とG.A.P.取得チーム全体の成長ぶりを話す。



ICT機器を活用し栽培履歴を蓄積

さらには、農業の未来を見据える視点も成長している。話を聞いた3人はいずれも将来は実家の農業を継ぐというが、「就農者の高齢化が問題」（加藤さん）、「離農者の増加で残りの農家の負担が増える」（首藤さん）と、直面する問題に向き合っていた。その解決方法についても、村上さんは「ICT化による効率化が必要です。G.A.P.認証で用いたようなデータを多く集めることで、まだまだ完璧ではない自走農機などの性能向上が期待できます」と、農業のDX（デジタルトランスフォーメーション）を牽引する世代の頼もしい意見を聞かせてくれた。（プログラム助成）



グループワークでリスク評価を行う生徒

学校概要



札幌農学校の大学昇格に伴い後継の農業教育機関として開設。農業科学科など7学科を設置し、2013年にはSSHに指定された。

設立：1907年
生徒数：640人
所在地：北海道岩見沢市並木町1-5

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索